

# 令和7年度 第8回「消費者の部屋」特別展示

## ◆環境にやさしい農業の普及に向けて◆

開催日： 令和7年9月22日 ～ 9月26日 4日間開催

内容： 2021年に農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」に基づき、2050年までに化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減、化学肥料の使用量を30%低減などの目標を掲げ、環境にやさしい農業を推進しています。本展示では、環境にやさしい農業に取り組んでいる生産者等の紹介をしました。

### 3つの制度の違いや探し方

＜化学肥料・化学合成農薬の使用量＞

慣行栽培	70%以下	50%以下	不使用
制度名	エコファーマー認定制度	沖縄県特別栽培農産物認証制度	有機農産物（有機JAS）認証制度
探し方	このマークが印字	有機農産物（有機JAS）認証マーク	有機JAS
どんな栽培？	土づくりに取り組み、化学肥料や化学合成農薬の使用量を50%以上削減した栽培です。	農薬が少なく、化学肥料の使用量を50%以上削減した栽培です。	化学肥料・農薬を含まないなどの「有機農産物」の栽培です。

環境にやさしい農業のことを、「環境保全型農業」といいます。私たちの命の食や家畜ふん尿などの資源（有機物）からたい肥をつくり、これを使って作物の栽培に必要な土づくりをします。あわせて、化学肥料や化学合成農薬にできるだけ頼らない技術を用いることにより、授産にあわせて環境と調和のとれた農業生産活動を続けようとする農業のことです。

みなさんが環境にやさしい農産物を簡単に見つけられるよう「エコファーマー認定制度」「沖縄県特別栽培農産物認証制度」「有機農産物（有機JAS）認証制度」という3つの制度があります。

3つの制度の違いや探し方はこれ！

### 環境にやさしい農業

### 消費者への想い

「環境にやさしい農業」は、消費者の健康と安全を守るだけでなく、地球環境の持続可能性にも貢献しています。私たちは、化学肥料や化学合成農薬の使用量を削減し、自然の力を活かした栽培に取り組んでいます。消費者の皆様には、安心して食べられる農産物を届けることが最大の目標です。

### 今後の展望

環境にやさしい農業の普及に向けて、さらなる取り組みを進めます。消費者の皆様とのコミュニケーションを大切にし、安心して食べられる農産物を届けることに努めます。

### 有機野菜でも「美味しさ」が大切

有機野菜は、化学肥料や化学合成農薬を使用しない栽培です。そのため、味が濃く、自然の恵みを感じることができます。私たちは、美味しい野菜を届けることを大切にしています。

### 有機農産物の普及に向けて

有機農産物の普及に向けて、さらなる取り組みを進めます。消費者の皆様とのコミュニケーションを大切にし、安心して食べられる農産物を届けることに努めます。

### INFORMATION

〇社名：農畜農園  
〇所在地：沖縄県南風原3250-1  
〇企業理念  
一、安全・安心な農産物を生産する農園  
一、地域や消費者に貢献する農園  
二、全てのことに対して、相手の目標、気持ちに寄り添う。  
一、自身、働く仲間、お客様、地域に貢献する。  
一、人の良い点を認めるように努力する。

### 有機JAS認証生産者紹介

### 国における取組

関係者だけでは解決し得ない課題に対処するため、特に国が行うべき取組の方向性を明確化。

- 関係者の理解の促進
- 技術の研究開発の促進
- 技術の普及の促進
- 環境負荷の低減に資する農林水産物等の消費の促進
- 環境負荷の低減に資する生産活動の促進
- 評価手法等の開発
- 環境負荷の低減に資する農林水産物等の流通の合理化の促進
- 環境負荷の低減に資する原材料の促進

①関係者の理解の促進：広域連携の構築、NIPPON FOOD SHIFT、産学官連携の強化、研究者の養成等

②技術の研究開発の促進：デジタル技術の活用、研究者の養成等

③技術の普及の促進：取組マニュアル等の情報提供、農業者への研修

④環境負荷の低減に資する農林水産物等の消費の促進：消費者への適切な情報提供、食育の推進

⑤環境負荷の低減に資する生産活動の促進：地方産地、化学肥料・化学合成農薬の使用削減、温室効果ガスの削減・吸収 など

⑥評価手法等の開発：取組量の算定・評価手法（見える化）の開発

⑦環境負荷の低減に資する農林水産物等の流通の合理化の促進：取組量の算定・評価手法（見える化）の開発

⑧環境負荷の低減に資する原材料の促進：ICT、IoT、モータードライブ、最先端技術の活用

⑨環境負荷の低減に資する原材料の促進：原材料の生産等の状況に関する情報収集・提供

### 国における取組

### 土づくりと病害虫への対策法

土づくりに取り組むことで、作物の生育を促進し、病害虫の発生を抑えることができます。また、有機肥料や堆肥の活用により、土壌の肥力を高め、作物の成長を促します。

### 今後の展望

土づくりに取り組むことで、作物の生育を促進し、病害虫の発生を抑えることができます。また、有機肥料や堆肥の活用により、土壌の肥力を高め、作物の成長を促します。

### INFORMATION

〇社名：びりなファーム  
〇所在地：宮野村宮野1087  
〇びりなとは  
「びりな」は、作物を通して出会ったびりなを愛してはほしいという想いを込めています。  
〇栽培理念  
・作物に寄り添う栽培  
・すべてに誠実

天敵農業とは？  
害虫を餌にして育てる昆虫や動物のことです。「天敵」とも呼ばれます。この天敵を使って害虫を防除できることから「天敵農業」と呼ばれます。有機農業でも使うことがありますが、天敵は、農薬が使用されにくいことや人や環境に対して安全が高いことなどメリットとしてあげられます。

### 特別栽培農産物認証生産者紹介

### 有機農産物取扱小売店紹介

#### オーガニック市場てんぷす

場所：沖縄市比嘉2-2-8（比嘉本店）

取組概要  
県内2か所（泡盛本店、那覇店）で有機農産物、有機加工食品及び有機農産物・特別栽培農産物を使用したお弁当、惣菜などを販売。  
（取組のポイント）  
・生産者による販売価格の設定  
・福岡県産の醤油や味噌などをオリジナルパッケージでプロデュース  
・取扱品目にバリエーションを出すため、県内、県外の気候の違いを利用した有機農産物を調達  
・大手スーパーが仕入れにくい生産者・加工業者こだわりの商品などの積極的な仕入れ

現状と課題  
〇消費者が有機農産物に関心を持ったと感じるタイミング  
・赤やんが生まれたとき  
・体の調子が悪いとき  
・家族が病気になったとき  
〇有機農産物取扱いに関して  
・1ヶ所からの入荷量が限られることから、複数か所からの仕入れが必要であり、送料負担が大い。  
〇有機農産物購入の負担感  
・購入者の6割ほどがリーダーであり、生活に無理のない範囲で取り入れてくれている。

普及に向けて  
〇集出荷場の設置  
・県内の有機農産物に関しても、集積する場所や業者があれば、県外業者からの発注等の利用が増え、販売先確保への不安が減るのではないか。  
〇所得増に向け戦略の幅を広げること  
・土づくりにこだわっている方も多くいる。家庭菜園や観葉植物用に安価にした土を販売するなど、農産物とは別の収入源を確保することができれば、安心して有機農業に取り組めるのではないか。

### 有機農産物取扱小売店紹介

### 有機農産物取扱料理店紹介

#### 浮島ガーデン

場所：沖縄県那覇市松原2丁目12-3

取組概要  
県産有機農産物を利用した料理を提供するお店の展開や冷凍食品などの加工品の製造・販売を行う。  
（取組のポイント）  
・仕入れは本島（西原町等）や離島（竹富町等）の有機農産物をもとへ自ら足を運んでルートを開拓。  
・地域支援型農業（CSA）にも取り組む。  
※消費者と生産者が連携し、新採いによる農産物契約を通じて、相互に安心できる仕組み  
・沖縄県内の有機農業の普及・支援に向けて活動中。

現状と課題  
〇仕入れ時の状態  
・仕入れられている有機農産物は加工調理するので、品質はそこまで気にできていない。問題なく利用できる。  
〇消費者の意識  
・健康だけでなく、環境への問題等を考え、有機農産物を選ぶ消費者が増えている。  
〇環境の変化  
・気候変動に伴い、地域によっては収量が大きく減っているのではないかと懸念されている。

普及に向けて  
〇有機栽培を広げるためには  
・有機農産物を生産する小規模農家を守る支援（特に機械の補助）が必要。  
・有機栽培に挑戦するためには、勇気がある。農家の生活を支援する事業があったら良いと思う。  
〇今後の自社の取組について  
・有機農産物の加工に力を入れていき、環境意識が高い海外に向けた輸出を検討。

### 有機農産物取扱料理店紹介

## 3つの制度の違いや探し方

〈化学肥料・化学合成農薬の使用量〉

慣行栽培

70%  
以下

50%  
以下

不使用

制度名	エコ ファーマー 認定制度	沖縄県特別 栽培農産物 認証制度	有機農産物 (有機JAS) 認証制度
探し方 この マークが 目印!			
どんな 栽培?	土づくりに取り 組み、化学肥料や 農薬使用の低減に 取り組む農家さん に与えられた認証。	農産物が生産さ れた地域の慣行レ ベルに比べて、化 学肥料・農薬の使 用を50%以上減ら した栽培で生産さ れた農産物。	化学肥料・農薬 を使用しないなど の「有機農産物の 日本農林規格」の 基準に従って生産 された農産物。

## 環境にやさしい農業 ってなに？

環境にやさしい農業のことを、「環境保全型農業」とい  
います。

私たちの食事の食べ残しや家畜ふん尿などの資源（有  
機物）からたい肥をつくり、これを使って作物の栽培に  
必要な土づくりをします。あわせて、化学肥料や化学合  
成農薬にできるだけ頼らない技術を用いることにより、  
将来にわたって環境と調和のとれた農業生産活動を続ける  
ことができる農業のことです。

みなさんが環境にやさしい農産物を簡単に見つけられ  
るよう「エコファーマー認定制度」「沖縄県特別栽培農  
産物認証制度」「有機農産物（有機JAS）認証制度」と  
いう3つの制度があります。

3つの制度の  
違いや探し方は  
これ！



# 国における取組

○ 関係者だけでは解決し得ない課題に対処するため、特に国が行うべき取組の方向性を明確化。

## ①関係者の理解の増進



食から日本を考える。  
**NIPPON FOOD SHIFT**

➢ 広報活動の充実

## ②技術の研究開発の促進



➢ 産学官連携の強化、研究者の養成等

## ③技術の普及の促進



➢ 栽培マニュアル等の情報提供や普及事業の展開

## ⑦環境負荷の低減に資する農林水産物等の消費の促進



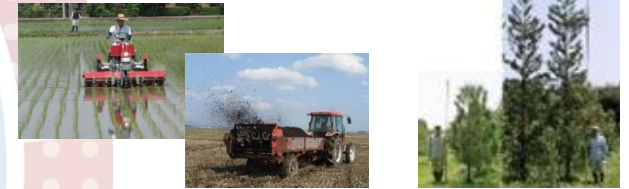
➢ 消費者への適切な情報提供、食育の推進

## ⑧評価手法等の開発



➢ 脱炭素化等の定量化・評価手法（見える化）の検討

## ④環境負荷の低減に資する生産活動の促進



➢ 地力増進、化学肥料・化学農薬の使用低減、温室効果ガスの削減・吸収 など

## ⑥環境負荷の低減に資する農林水産物等の流通の合理化の促進



➢ ICT化、モーダルシフト、集出荷拠点の集約化等

## ⑤環境負荷の低減に資する原材料の利用の促進



➢ 原材料の生産等の状況に関する情報収集・提供



## 有機農業の普及に向けて

有機農業でも、ちゃんと管理ができれば収穫まで結びつきます。今後の経営のためにも、誰が管理しても十分に収穫できるような、いずれは作業をマニュアル化するほか、より簡単な栽培方法を研究していきたいと考えています。

また、有機農業の認知度向上のため、植え付け・収穫体験を提供しています。インスタグラムやラインアプリでその様子を発信したり告知を行ったりしています。

## 有機野菜でも「美味しさ」が大切

僕は、有機農産物だからといって全てが美味しいとは限らないと思っています。そして、慣行農業でも有機農業でも一番は「美味しいこと」が大切だと考えています。

安心安全な農産物を食卓へ届けるのは当たり前のこと、その上でもっとも美味しく美味い野菜を皆さんにお届けできるように頑張っています。

## 消費者への想い

有機の栽培方法は品目ごとに全く異なるため、多くの品目を作るのはとても大変ですが、色んな種類の野菜を届けるため、もっと多くの品目を作りたいです。

また、有機農産物は、反収が低く価格が高くなってしまいがちですが、多くの人に有機農産物を食べてほしいため、いずれは反収を上げ、誰もが手の届く価格で考える有機農産物を作りたいと考えています。



## 今後の展望

識名農園のほ場を開放し、植え付けから収穫まで一貫した農作業体験を提供したいです。体験を通じて有機農業への認知度をさらに高めるほか、興味をもった子どもが将来農家になりたいと思ってくれたら嬉しいです。

## INFORMATION

- 社名：識名農園
- 所在地：うるま市勝連南風原3350-1
- 企業理念

- 一、安全・安心な農産物を生産する農園
- 一、地域や消費者に信頼される農園
- 一、全てのことに對して、相手の目線、気持ちになり行動する
- 一、己自身、無くてはならない人になる
- 一、人の良い点を見ないように努力する



識名農園HP



# 土づくりと病害虫への対策法

植物生理や土壌分析から論理的に施肥設計をし、必要な肥料だけを使用しています。あわせて、トラッシュやバカス、緑肥等の植物性堆肥を主とした土づくりがこだわりです。病害虫への対処法として、一番大切に行っていることは、病害虫に負けない強い作物に育てることです。その上で、天敵農薬や微生物農薬も使用していますが、沖縄は虫が多いため、必要に応じて化学農薬も使用しています。病害虫の発生をいかに早く気付けるかが重要ですので、作物やハウスの内の環境を細やかに観察し、異常が無いか常に目を光らせています。

クレオメ  
(タバコカスミカメが好む植物)



コナジラミの天敵のタバコカスミカメ

## 天敵農薬とは？

害虫を餌にして増える昆虫や微生物のことを「天敵」と呼びます。この天敵を使って害虫を防除できることから「天敵農薬」と呼ばれます。

有機農業でも使うことができるほか、抵抗性が生まれにくいことや人や環境に対して安全性が高いことなどがメリットとしてあげられます。

## 今後の展望

就農から10年間、無我夢中で農業に取り組んできました。10年の節目に自身の農業を見つめ直し、これからの展望を描いていきたいと思っています。

特別栽培農産物の基準である化学肥料・農薬を5割以上低減から7割減、うまくいけば有機JAS認証等も視野に入れながら技術の向上に努め、今よりもさらに美味しい農産物、さらに栄養価の高い農産物を作れるようにしていきたいと考えています。

## 周りの生産者について



宜野座村では「ぎのぎ型エコ農業」を推進していることもあり、環境にやさしい農業に取り組む生産者が増えている印象があります。そういった生産者同士でグループを作り、BLOF理論などの勉強会を開催し、更なる技術の向上を目指しています。

## INFORMATION

- 社名：ぴりなファーム
- 所在地：宜野座村宜野座1087
- ぴりなとは：  
ハワイの言葉で「つながり」作物を通して出会ったぴりなを覚えていてほしいという想いを込めている。
- 経営理念
  - ・作物に寄り添う栽培
  - ・すべてに誠実に



ぴりなファームHP



# オーガニック市場てんぶす

場所：沖縄市比屋根2-2-8（泡瀬本店）

小売店に  
聞きました  
①

取材日：R5.12.4（月）

## 取組概要

県内2か所（泡瀬本店、那覇店）で有機農産物、有機加工食品及び有機農産物・特別栽培農産物を使用したお弁当、惣菜などを販売。



### 〈取組のポイント〉

- ・生産者による販売価格の設定
- ・福岡県産の醤油や味噌などをオリジナルパッケージでプロデュース
- ・取扱品目にバリエーションを出すため、県内、県外の気候の違いを利用した有機農産物を調達
- ・大手スーパーが仕入れにくい生産者・加工業者こだわりの商品などの積極的な仕入れ



## 現状と課題

### ○消費者が有機農産物に関心を持ったと感じるタイミング

- ・赤ちゃんが生まれたとき
- ・体の調子が悪いとき
- ・家族が病気になったとき

### ○有機農産物取扱いに関して

- ・1ヶ所からの入荷量が限られることから、複数カ所からの仕入れなどが必要であり、**送料負担が大きい。**

### ○有機農産物購入の負担感

- ・購入者の6割ほどがリピーターであり、生活に無理のない範囲で取り入れてくれている。

## 普及に向けて

### ○集出荷場の設置

- ・県内の有機農産物に関しても、集積する場所や業者があれば、県外業者からの発注等の利用が増え、販売先確保への不安が減るのではないか。

### ○所得増に向け戦略の幅を広げること

- ・土づくりにこだわっている方も多いと思う。家庭菜園や観葉植物用に袋詰めした土を販売するなど、農産物とは別の収入源を確保することができれば、安心して有機農業に取り組めるのではないか。

# 浮島ガーデン

場所：沖縄県那覇市松尾2丁目12-3

飲食店に  
聞きました  
①

取材日：R6.1.15（月）

## 取組概要

県産有機農産物を利用した料理を提供するお店の展開や冷凍食品などの加工品の製造・販売を行う。



〈取組のポイント〉

・仕入れは本島（西原町等）や離島（竹富町等）の有機農業者のもとへ**自ら足を運んでルートを開拓。**

・**地域支援型農業（CSA）**にも取り組む。

※ 消費者と生産者が連携し、前払いによる農産物契約を通じて、相互に支えあう仕組み

・沖縄県内の有機農業の普及・支援に向けて活動中。



## 現状と課題

### ○仕入れ時の状態

・仕入れている有機農産物は加工調理するので、形質はそこまで気にならず、問題なく利用できている。

### ○消費者の意識

・健康だけでなく、環境への問題等を考え、有機農産物を選ぶ消費者が増えている。

### ○有機野菜が少ない

・県内の有機農産物は量が少なく、仕入れに苦労。

### ○送料の高騰

・輸送費高騰の影響で送料が上がり、離島及び県外からの仕入れ値が高くなっている。

### ○環境の変化

・気候変動に伴い、地域によっては収量が大きく減少しているのではないかと懸念されている。

## 普及に向けて

### ○有機栽培を広げるためには

・有機農産物を生産する**小規模農家を守る支援**（特に機械の補助）が必要。

・有機栽培に挑戦するためには、勇気がいる。農家の生活を支援する事業があったら良いと思う。

### ○今後の自社の取組について

・有機農産物の加工に力を入れていき、環境意識などが高い**海外に向けた輸出**を検討。